

東波鈔

五三

八
一
三
四

四

東坡先生詩集卷第三

寶玲文庫

東坡先生詩集卷第三

和子由寄子瞻詩 嘉祐八年果即任在凡翔作二十六

子由三十三歲侍老蘇在東師 一義世間之難入其門者事也方

以上尚疑世間之難入其門也

後名已一徇方已一凡人以命歿於世已自勤不勤

其名不立又勤是名後已兩從夫一之也ツカワレト云ハナリ

又徇任於方已隨意則已兩也於是得彼方如凡物以世共推謀

其也公本性愚且拙向此方名兩共不謀也一力任所為也

始也亦一途亦一此各判問因乃以之任所為也但知敬

敬則所一公養任立身適意也今往溪堂可讀書是也願

也救失之而子各判問因是公之非本意也士亦其林也

化亦世尚士也皆以得失為憂其之洗也難收也

我欲走南一信矣堂之公歎往溪堂之意春金雨鳴

我欲走南一信矣堂之公歎往溪堂之意春金雨鳴

時在^レ今^レ七月六月^レ河^レ淺^レ鞅^レ之^レ美^レ負^レ荷^レ捧^レ持^レ魚^レ注^レ種^レ
此^レ用^レ之^レ其^レ物^レ破^レ拘^レ束^レ之^レ注^レ故^レ橋^レ以^レ此^レ句^レ仁^レ宗^レ廣^レ作^レ自^レ
几^レ翔^レ以^レ民^レ宗^レ運^レ材^レ木^レ之^レ十^レ以^レ之^レ王^レ事^レ之^レ講^レ觀^レ厥^レ然^レ民^レ
宗^レ同^レ也^レ買^レ羞^レ中^レ同^レ一^レ此^レ武^レ及^レ大^レ早^レ故^レ千^レ夫^レ一^レ木^レ稅^レカ^レ又^レ十^レリ^レ
河^レ水^レ一^レ此^レ時^レ亦^レ同^レ次^レ亦^レ同^レ也^レ民^レ宗^レ食^レ不^レ飽^レ餘^レ
夏^レ一^レ求^レ也^レ義^レ餘^レ又^レ三^レ格^レ束^レ之^レ十^レ銀^レカ^レ十^レ十^レ
秋^レ一^レ民^レ宗^レ亦^レ幸^レ過^レ格^レ束^レ之^レ十^レ銀^レカ^レ十^レ十^レ
自^レ春^レ玉^レ并^レ百^レ日^レ也^レ
同^レ宵^レ有^レ宮^レ

上帝^レ一^レ上帝^レ也^レ瓊^レ之^レ鏡^レ河^レ宵^レ有^レ宮^レ也^レ青^レ山^レ一^レ利^レ洞^レ宵^レ
冥^レ五^レ洞^レ九^レ峯^レ此^レ九^レ鎮^レ之^レ作^レ七^レ人^レ一^レ洞^レ宵^レ有^レ宮^レ七^レ人^レ之^レ名^レ
下^レ一^レ洞^レ中^レ一^レ洞^レ宵^レ有^レ宮^レ也^レ景^レ也^レ之^レ松^レ一^レ此^レ洞^レ宵^レ有^レ宮^レ也^レ
怪^レ石^レ而^レ有^レ其^レ名^レ也^レ對^レ宮^レ此^レ名^レ也^レ洞^レ宵^レ有^レ宮^レ也^レ
其^レ金^レ丹^レ駐^レ視^レ願^レ不^レ用^レ也^レ此^レ洞^レ宵^レ有^レ宮^レ也^レ觀^レ也^レ
奉^レ新^レ一^レ大^レ一^レ天^レ帝^レ名^レ也^レ氣^レ社^レ七^レ年^レ奉^レ行^レ也^レ

聖^レ一^レ言^レ新^レ字^レ也^レ秘^レ藏^レ也^レ天子^レ歲^レ及^レ下^レ民^レ之^レ抗^レ祈^レ也^レ
祝^レ神^レ崇^レ也^レ祥^レ也^レ傳^レ臣^レ韓^レ川^レ也^レ壽^レ宮^レ神^レ君^レ勤^レ至^レ壽^レ宮^レ
完^レ大^レ一^レ宮^レ也^レ玉^レ室^レ一^レ天^レ子^レ自^レ以^レ玉^レ室^レ中^レ也^レ祝^レ也^レ多^レ神^レ
也^レ金^レ室^レ大^レ一^レ人^レ付^レ香^レ之^レ會^レ子^レ之^レ崇^レ禮^レ也^レ祝^レ也^レ神^レ參^レ
乘^レ也^レ驅^レ也^レ一^レ依^レ句^レ衡^レ也^レ一^レ祭^レ未^レ祝^レ也^レ用^レ也^レ天^レ帝^レ
一^レ支^レ祝^レ也^レ解^レ知^レ一^レ祭^レ禮^レ也^レ韓^レ川^レ也^レ祝^レ也^レ大^レ一^レ宮^レ
張^レ也^レ道^レ士^レ觀^レ游^レ魚^レ之^レ之^レ也^レ只^レ字^レ法^レ用^レ也^レ波^レ也^レ一^レ上^レ尊^レ三^レ年^レ
清^レ句^レ故^レ言^レ豐^レ三^レ年^レ一^レ意^レ皂^レ美^レ也^レ一^レ韓^レ川^レ也^レ歐^レ朝^レ紅^レ也^レ
時^レ分^レ

次^レ句^レ子^レ一^レ元^レ祐^レ三^レ年^レ四^レ祭^レ作^レ之^レ三^レ或^レ五^レ月^レ五^レ日^レ在^レ坡^レ
奏^レ設^レ五^レ日^レ一^レ日^レ於^レ文^レ德^レ殿^レ以^レ次^レ射^レ也^レ一^レア^レソ^レ五^レ月^レ
一^レ日^レ計^レ一^レ八^レ見^レ是^レ注^レ
跪^レ奉^レ一^レ公^レ子^レ由^レ因^レ信^レ新^レ命^レ自^レ聖^レ宗^レ以^レ來^レ書^レ之^レ也^レ

幸凡伯一祝一言時也美華一守制一話也...
類叔也如璧多士...
故莫作夫傷者

疑祥一在景灵宮中即澄游殿也在此神

觀一在

此知一此他似思公故卿亦雪一言也似故...
聖一之馬一之在從遊此他乞乞一此對高華一

使在都下准寧中言華一使如國寺壁金富的
妙今此疑祥一此余一故設太平一國一物未降

上元一元祐八在內苑作公五年八

後月一後之君子壽壽一珠之字明月一喜揚其妙也

竹屋制一公自言一亦一天子一白冷...
水句一也

荷一未耕... 新... 老若... 動侯...

不... 故... 笑... 皇... 亦... 新... 羅... 何... 可...

老病一公自言也此時五十八七月... 教... 月... 景...

... 故... 未... 公... 此... 在... 中... 矣... 細... 思... 漢... 書... 以... 注...

... 侯... 集... 曰... 細... 者... 自... 天... 子... 瑒... 細... 同... 故... 也...

永安一在藏文州... 文有劉... 蕭... 故... 否... 也

千古... 凌... 石... 變... 故... 自... 是... 步... 如... 何... 故... 宮... 殿... 只... 門... 總... 控... 今... 一... 以...

下... 少... 平... 門... 今... 在... 林... 之... 寫... 通... 門... 也... 石... 身... 一... 少... 平...

... 樓... 之... 呼... 嗟... 寫... 先... 主... 是... 建... 武... 中... 先... 主... 是... 戰... 山... 兵... 將... 陸...

... 陸... 集... 夫... 敗... 先... 主... 兵... 陸... 遊... 兵... 一... 天... 人... 一... 把... 節... 也... 先... 主... 四... 十...

... 余... 陣... 林... 於... 後... 故... 此... 之... 事... 也... 之... 應... 法... 兵... 死... 使... 之... 建... 建... 先... 主...

... 於... 此... 燔... 陣... 敗... 之... 事... 也... 之... 應... 法... 兵... 死... 使... 之... 建... 建... 先... 主... 故... 矣...

新松... 待... 松... 葉... 春...

和蔡... 元曲... 七... 黃州... 作... 九... 顧氏... 在黃

有各... 景... 胸... 山... 臨... 海... 石... 室... 信... 如... 所... 論...

又有... 胡... 琴... 輝... 就... 室... 中... 作... 淮... 上... 京... 州... 樓... 世... 為... 冰... 車

駘... 馬... 入... 卷... 一... 之... 景... 繁... 名... 義... 祿... 時... 為... 淮... 南... 轉... 運... 副... 使

景... 司... 於... 禁... 州... 之... 海... 州... 之... 胸... 山... 石... 室... 如... 對... 一... 華... 可... 航

其... 莫... 一... 下... 十... 六... 句... 之... 本... 朝... 之... 初... 不... 景... 又... 知... 於... 此... 也

蒼... 一... 壁... 一... 之... 胸... 之... 莫... 未... 言... 石... 室... 之... 文... 如... 凡... 兩... 言... 桃... 核... 散

柳... 多... 花... 向... 一... 室... 之... 可... 定... 車... 之... 景... 一... 上... 所... 言... 之... 景... 藤

翠... 壁... 此... 名... 室... 之... 景... 寶... 蓋... 垂... 如... 又... 一... 至... 武... 實... 景... 景... 景... 景...

景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景...

室... 也... 次... 入... 句... 之... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景... 景...

埋... 何... 又... 飛... 去... 之... 當... 時... 一... 至... 今... 一... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人

景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人

輪... 白... 甲... 依... 瓊... 之... 石... 室... 也... 我... 一... 醉... 一... 下... 四... 句... 皆... 言... 曾

於... 此... 先... 生... 言... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人

故... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人... 景... 又... 知... 於... 此... 醉... 舞... 仙... 人

爾... 來... 一... 下... 十... 句... 言... 景... 繁... 名... 義... 祿... 時... 為... 淮... 南... 轉... 運... 副... 使

為... 材... 運... 使... 也... 中... 郎... 以... 景... 繁... 名... 義... 祿... 時... 為... 淮... 南... 轉... 運... 副... 使

口改... 一東州... 子由在徐州所居

即約州也

堂前... 此法... 牡丹... 秋... 馮... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

此... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇... 蘇...

拙著此公、深察間、必、忍、如、此、多、累、之、仙、佛、毛、仙、鬼、
注、乃、西、山、果、座、主、の、一、神、符、字、楊、妃、外、傳、方、士、神、符、
扣、扉、美、我、如、
此也、

○秀州、靜、照、一、又、上、觀、之、也、
○秀州、靜、照、一、又、上、觀、之、也、

○多、因、一、靜、多、因、一、靜、多、因、一、靜、
○多、因、一、靜、多、因、一、靜、多、因、一、靜、

○法、君、之、有、一、本、堂、今、至、此、院、先、出、前、也、
○法、君、之、有、一、本、堂、今、至、此、院、先、出、前、也、

○本、心、不、動、假、以、電、目、靜、
○本、心、不、動、假、以、電、目、靜、

○海、上、之、事、一、必、以、胡、之、年、通、也、
○海、上、之、事、一、必、以、胡、之、年、通、也、

○湖、士、莫、見、此、本、堂、隨、江、湖、士、若、見、此、靜、
○湖、士、莫、見、此、本、堂、隨、江、湖、士、若、見、此、靜、

○人、生、一、つ、下、可、招、命、也、受、本、之、意、見、聖、人、
○人、生、一、つ、下、可、招、命、也、受、本、之、意、見、聖、人、

○東、之、今、此、意、法、の、識、字、ト、之、也、
○東、之、今、此、意、法、の、識、字、ト、之、也、

○作、何、也、用、是、一、其、草、維、持、故、悲、
○作、何、也、用、是、一、其、草、維、持、故、悲、

○莊、子、在、注、胡、董、伯、曰、道、道、之、遠、也、
○莊、子、在、注、胡、董、伯、曰、道、道、之、遠、也、

○近、者、一、以、神、命、道、其、美、酒、道、憂、故、
○近、者、一、以、神、命、道、其、美、酒、道、憂、故、

○乃、知、一、之、言、文、氣、舒、曰、今、也、
○乃、知、一、之、言、文、氣、舒、曰、今、也、

也兵以兩不子世其美其金不之也何子數
以琴年運道極不之也樂以之也其金
亦如然此隱金非至樂也樂全一維比平道一簡然在
子大宗師而簡然也平全一也樂一則曰簡然在
上上者樂也待也道何樂其不用自為大全也
我公也樂無也何人女一也故欲一子也欲其
右何并是也一以何民也欲其用禮端年也衣
冠也也此欲也我欲也道也空也其樂也西友
初親一也如也如也我欲也樂全也
初欲我同也樂全也一也一也今同全何此全也
若全此樂也
○張子心之也并也出命也保其性
張子一也何也老着也夫子一也一也示也樂先也何可

孔子其子也其子也其子也其子也其子也
年一也其子也其子也其子也其子也其子也
何至也十也又也其子也其子也其子也其子也
彼也一也其子也其子也其子也其子也其子也
一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
此也一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
曰杜一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
言一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
崎也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
白也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
路一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
○和鮮干一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
○和鮮干一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
○和鮮干一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也
○和鮮干一也其子也其子也其子也其子也其子也其子也

佳人胡琴入祇神 佳人祇神 山川今何一 之書一徐州也 歲月一 駿一放

字 平声 之 用放 不 字音 今 不 審 子 駿 本 司 用 不 放

入 梅 聖 俞 村 多 用 放 播 之 子 抄 此 守 决 年

船 上 子 駿 穿 次 隔 山 月 隔 過 心 又 其 時 隔 更 不

知 過 遊 樂 飲 白 月 一 子 眼 堂 上 復 見 几 一 上 一

露 科 一 子 起 觀 一 子 復 一 左 一 右 一 一 一

千 枝 一 子 駿 也 獨 一 如 書 一 一 駿 一 月 也

西 如 一 子 駿 也 又 子 月 子 駿 也 又 子 月 子 駿 也

雪 一 之 書 元 徐州 作 并 考 杭州 法 東 院 元 師

取 吾 室 一 亦 并 也 一 先 是 宗 村 村 村 對 吾 楚 一 今 在 徐

州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州 州

之 子 在 此 亦 觀 止 山 法 不 係 本 一 法 以 也 故

同 事 中 一 亦 此 觀 不 亦 多 亦 多 亦 多 亦 多 亦 多 亦 多

小 觀 亦 出 法 也 故 一 法 一 法 一 法 一 法 一 法 一 法 一

十年十上十有卷序公只幸若世心唐天德初年此十卷也

批床一之十卷反如一之十卷趙陳司新勇也多回誰以性趨於也

自叔強亦召三人也故過少奇也安下通德一主

一醉一此力唐升序美歸自在如深谷

深谷一高林元祐七楊州作卷楊州大明子元祐中建

我來通一物權升六案節一推升而己方車車一有學老槐一凡花想也

空公南月向必存唐公九游料此詩也古心自到感

我和眾好一之符三年北歐之字五之又老子之虛

无自然說道云天地先道達物之外未失本

有性云又云眾好其万物上道達物之

其然云於万物之所以道達物之上彼我也

忘之是古云也云於此云觀此而如夫物云上云

好万物云此万物云少云水自小山自山觀自得

幅好中好道乃在云黑云万物中在純觀

我自日月誰使春星我命云即受生于天地間中自

日月如何別又豈可養生乎皮州一建中結國元李
向南故博然也入觀心一會一起木時字相
念一元然灰橋心然乃風雙也方定之時聖生定
惠照小寂非兩行心一致也妙德定煩想心行
松林惠又業般若報乃不動照也昔解脫願乃多此
三共多也故亦外多者楞嚴經中三卷阿羅漢讚歎
辭又觀此三入定即默然志入不二行心以聖德入
上定俗人一至也積息則默一定在止息人亦不
起即默然不二門也此說一言默然也也諸亦一言
不容一以信實也款一更一三報楞嚴好博松林即同
去也之心又一義以機用同取法三李四也將學用
之法也如如也

城南一語為投義一論教法形之也先度塵

今夕一信法形也極是一公與荒一如在也也是前生
說之胡像誰為一人鏡也莫奈黑記之和中有若牙也
說後胡像出一乘食一乃修系生之快師雪心也
同講法華徑於同真寺若房乃前學與戒法多邊
也又一義說安道說也若若然一同極云又一義我心
心說也如即此卷上定下十七也今說為一人紅英一綠
一卷前一景也記取一取一作一老花有一辭也

口張

君家一姓卷歲天祿一言合人多也豈推一年之也
世人一朕涉經至我笑也事許年即一此人即識黑

合文曰子一世心揚雄可文步
法江案一如下去一知君如事
玉色定之河一毒却同為於人
求方寸身見注信因果一或地
多事知命於施物於知造世用
也其時之法良一編
是失地林人呼橋曰地

劉壯一建中靖國元年四月自海外歸南康

問燕一義仁義退朝而坐理之
是非不可言其各細說若私言
又義非仁也非仁是義一善惡
秋一子二保不貶善惡一又阮
嗣宗如截石兩

劉君一傳古以四封又言其史
下字法道原上引馬光
因少通鑑二百卷卷之九
陋進一妹之女一四顏之由
群孤世俗也
杜輿今微一又入古之作
政身善以稱人不善人自遠
交焉元所獲也以上四句
心義命也戒壯輿也

口夷陵一夷陵峽州四縣曰夷陵曰宜都曰長楊

曰遠也一叙以切責諫官逐貶峽州夷陵縣今

縣有六一也一叙在夷陵行以書意之矣向

西陵峽州一色夷陵也一叙上合言之故歸峽州

美四之矣胡也一叙知有文伯一叙一叙一叙

官一叙一叙一叙一叙一叙一叙一叙一叙一叙一叙

樹也事後列 游一邦吳州國也 三遊國吳州國也
故老事後列 行自言 長檝吳州國也 夢吳州國也 許國滅吳州國也
字多吳州國也 知吳州國也 字多吳州國也 吳州國也
平今飲未犀倒左盡林吳州國也 胡老吳州國也 後也

東坡四

石鼻城

嘉祐七八翔作子由有石鼻城記

平水一 此處非昔之國之收一 樣無支也平水曰水心欲戰國三國也

陌上征一 此處无支九間行客多不用 北客一 京師者也

蜀人一 殘山餘山欵杜刺水殘山一 白一 其壯无用山一 志也

独穿公自言 秋心謂可 奔謂可 言壯節也 漸一 自石鼻佳室鷄風景及

面自風景及下云八道也 一 混九 之也上新漢殘山一 句一 卷

世傳王迥一 子云同來人也遊一 元豐元一 三百八非也年漫向一

信然一 云向一 周遊古也乃一 極一 情一 言儒也

公作此人戒彼仙人迂誕一 支一 擬奔一 支一 取其儒道公戒彼仙人迂

誕一 支一 古聖人久不見云心也儒道貴一 再現世一 支一 又說一 心

風云周南台南也。亦凡十三國。變二南。道至甲女媧。行号此。變以下。奏樂敬前。向代為戒。故止。云禮義也。

王子高年十七八。比有一女。嫁之。女曰。吾用大慰也。此即用。瑤英相親。數年。或三五日。未或八九十日。未不知其去。處。后辭。

云。今日吾王子高二十年。后江陰群。後江上。可相逢。終。如所言。云。今願注。无逸。所引。忽。又。夢。用。道。服。而。至。此。古。无。王。

子高傳。芙蓉城。中古。又。今。此。說。中。用。此。語。故。引。用。此。也。

笑。誰。此。二。句。言。芙蓉城。不。曼。鄉。了。又。度。其。昔。王。人。也。曼。鄉。本。朝。也。

又。交。仁。宗。朝。為。觀。文。殿。學。士。珠。以下。白。瑤。美。在。此。芙蓉城。言。為。仙。女。也。

雲。霞。言。仙。女。之。形。容。千。妙。嬈。言。仙。女。眾。之。中。有。一。烟。用。瑤。美。形。容。之。微。雲。此。二。句。詩。語。能。言。仙。人。之。形。

往來。空。言。謫。隨。人。至。子。高。家。竟。坐。又。句。說。謫。心。也。此。故。謫。隨。人。至。子。高。家。竟。坐。又。句。說。謫。心。也。

天門。一。說。以下。四。句。全。在。人。間。言。子。高。相。約。无。復。一。雲。一。仙。車。也。俗。一。君。穿。被。今。謫。為。俗。場。首。在。天。上。穿。被。解。香。

今。零。落。淒。一。同。帝。廷。夜。閱。在。人。間。壽。也。第。出。絳。山。字。也。羽。節。聽。一。並。往。聽。也。此。二。句。言。用。瑤。美。之。平。生。實。事。支。見。注。

飄。然。誰。使。令。改。一。忽。一。寤。一。言。朝。天。帝。去。來。又。一。義。其。子。高。本。傳。所。謂。吾。去。十。日。未。一。意。款。仙。宮。一。下。七。句。願。注。所。謂。夕。夢。之。遊。

芙蓉城者也。夢中。一。玉。一。天。昏。一。天。昏。雲。夢。一。仙。人。平。春。也。故。云。玲。瑤。小。正。白。也。仙。風。一。流。鈴。樓。上。垂。鈴。也。次。前。一。句。也。

自。珠。簾。一。至。竟。坐。一。六。句。以。言。用。瑤。美。之。他。群。而。神。仙。以。鍊。形。為。誰。三。世。鍊。形。非。不。久。矣。以。謫。讓。黃。庭。經。故。而。鍊。形。切。為。空。故。不。免。有。人。間。一。事。天。門。四。句。以。言。周。以。夜。至。而。明。去。其。既。去。氣。枕。一。屬。餘。不。散。矣。此。言。其。初。至。也。支。冷。若。一。兼。亦。白。一。因。過。一。至。寒。氣。一。又。申。言。其。未。而。形。容。也。自。仙。宮。一。而。下。皆。傳。曲。中。支。此。皆。子。高。夢。中。所。見。一。古。人。及。竟。而。問。周。一。言。也。以。子。高。既。失。周。仙。回。視。世。同。羅。綺。

支。此。皆。子。高。夢。中。所。見。一。古。人。及。竟。而。問。周。一。言。也。以。子。高。既。失。周。仙。回。視。世。同。羅。綺。

皆羶腥，紛也。榮，一則先生言，若子子高相識如此也。

蓬，形，旁，竟也。生后，句也。蓬子，李注，強直自，新律有形自。

芳，^用一，^下題注，所謂下有王与一女，即至者也。子高夢中，^下九念此女郎，丁寧。

注每也。一朝，^下言子高夢覺，別瑤英也。又一義，初為夫婦，別九云。

故羅中別淚，白有云，春風，^下言果節，過也。

此，^下子高与周今，既浪，滄溟，隔，^下別，^下偶然也。亦相值，偶然也。故。

西，^下洋，^下白，^下在，^下願，^下君，^下一，^下君子高也。公所謂，^下躡，^下故，^下之，^下也。收視聽，^下二胸中。

三，^下庭，^下觀，^下佳，^下殺，^下生，^下蝗，^下如，^下莫，^下起，^下色，^下欲，^下之，^下念，^下三，^下庭，^下黃，^下庭，^下有，^下內，^下景。

外，^下景，^下中，^下景，^下又，^下三，^下丹，^下田，^下從，^下渠，^下一，^下念，^下一，^下刑，^下公，^下慰，^下子，^下高，^下意，^下也。深，^下莫。

悲，^下別，^下高，^下又，^下尹，^下刑，^下二，^下夫，^下人，^下力，^下如，^下一，^下念，^下誤，^下以，^下子，^下失，^下三，^下千，^下齡，^下未，^下人，^下間，^下可，^下為，^下夫。

鄙，^下鳩，^下几，^下翔，^下作。

衣中，^下一，^下畢竟，^下此，^下英雄，^下誰，^下得，^下似，^下只，^下將，^下胸，^下自，^下然，^下不，^下整，^下之，^下燈，^下元，^下明，^下達，^下曙，^下也。

寄題，^下春，^下左，^下洞，^下以，^下密，^下作，^下莫，^下見，^下于，^下第，^下三，^下卷，^下七，^下卷，^下景，^下此，^下之，^下七。

白，^下首，^下一，^下堆，^下前，^下有，^下岡，^下皆，^下種，^下松，^下故，^下公，^下七，^下卷，^下七，^下卷，^下為，^下君，^下教，^下種，^下方，^下松，^下岡，^下句，^下符。

待，^下看，^下走，^下一，^下季，^下拋，^下一，^下春，^下一，^下此，^下二，^下句，^下在，^下春，^下心，^下也。此，^下并，^下春，^下鳩，^下句，^下天。

造物者，^下不，^下計，^下故，^下陶，^下甄，^下外，^下云，^下陶，^下甄，^下生，^下長，^下萬，^下物，^下者，^下也。借，^下用，^下也。春，^下之，^下先，^下生，^下樹，^下枝。

屨中，^下在，^下登，^下并，^下春，^下心，^下也。

楊柳，^下一，^下此，^下二，^下句，^下春，^下心，^下也。箇，^下字，^下大，^下柳，^下熟，^下字，^下可，^下出，^下也。

何，^下求，^下一，^下徐，^下公，^下自，^下言，^下庵，^下一，^下此，^下景，^下此，^下誤，^下昔，^下司，^下馬，^下使，^下探，^下与，^下徐，^下元，^下士，^下寺，^下尋，^下庵，^下德。

公，^下吾，^下亦，^下与，^下誰，^下訪，^下此，^下可，^下景，^下此，^下直，^下云，^下深，^下敬，^下景，^下此，^下意，^下也。

东坡

元豐四年夏，^下作，^下东，^下坡，^下在，^下黃，^下崗，^下山，^下下，^下州，^下治，^下东，^下百，^下余，^下步，^下先，^下生，^下至，^下黃，^下二，^下年。

二十年，^下故，^下人，^下馬，^下之，^下鄉，^下為，^下守，^下以，^下故，^下營，^下地，^下數，^下十，^下畝，^下子，^下是，^下為，^下东，^下坡，^下有。

堂早雨雪以大雪中築故曰雪堂人傳雪於屋之又号东坡郊
白茅天為忠以东坡種也二詩名

余至一遺故人

瘵苦言也誰之捐之山之稅不償勞獨一公自言也崎一劬勞也

欲刮一寸毛秬稻也此句以下我稟何取高句見此此秬稻也言又款

荒田王天甫此說見年譜东坡因言向庠下秬稻也

江蜀王天甫氣此亦可種者也好一安我室雪堂也

一飽一言上秬稻柔柔款一言暗井也

自昔一聚落后以刘平傳於婦日聚廣雅曰落居也

流惡一畫水也去為柯氏一畝一尺曰步百曰一畝

枯一柯氏一昨夜一雨一擊一入地三尺曰一利雨言大雨也

法然流白故瀆指柯氏一波款一泥一有未枯根也

一寸芹嗟一喜也一春鳩一夏見注雪草言芹菜也雪也

種一數一好語一言春也一殊垂一秋葉一露也言夏也

爪秋一蛭一如一言秋也一新一言冬也

我久一江一古米也言一重一喜也一行當一許言未至喜也

良一禮記一意也一十年一以大數言也一未及成一來一

蒼言麥一曲一農一以下農又語也一君一餅一要須一

再拜一謙一苦言一得一苦言一此篇尤平淡大似陶淵明矣一固君傳

苦言一甘言一毒也一種一剥一却一

種一夏一吾一怒一十年一此句為下種橋一

左隣岳一徐公也言李子公擇也一自卓岸一起化公擇力曰吉又遺一

百我今欲乞也竹蒿河我多青茅垂屋前而空

潘子調選奉也張狀之傳十年不得調言潘大隨支見年譜

東坡曰郭一郭生名壽約陽人也故以郭若陽日將種也

古生古生字耕道新生人押平夏見大平慶記百生卷

容容公之至也我三子言潘郭古也

可杜公自北也吾卜子夏公以三子弟是心也

馬日青求夏累生馬生鄉也借耕馬生鄉也

墨故地借与公令耕故終云欠我用為人日縱

刮毛擅下二義言耕癩田坐也

小兒

小兒愁一愁世支也形容小兒白也歡見癩多

兒為下此三句老妻責公辭也愧一此妻言也

洗富一為大勝一為酒一為出盡一為可一也

姪遠一蜀款元豐西黃亦作自二句至一為義理可好

南來自京來黃晚北子坐一遮一昏一遮一眼一必不說藥山看往為遮

眼去目前无尽支来不見忘也公今方支不見思一說昏也

伴人一言夜坐也范德棧云客舍青灯如骨肉今汝一送晚一志且一蹶

自已半生与半生幸一免使韓自此吁嗟世支元不然白頭一御制

序作短灯檠心衰一自言也相一見形可知定耻言可知此也夏淨

識交馥一思家一蜀也

畏人一黃公謫居耽節必可畏人注云惺然誤モクシ之云癡鈍之也惺

上元黑草段上元非上元段木間曰一蜀故人也應永夜一也

吳音以下言試紙此杭吳地也故吳音上凡佳人閉愁無匹者之今此反
又試紙落第之氣有閉愁也自古一人今此反童自古佳人落第如
湖一春一悲來節一過此反童空之老尽一過楊花也如紫之春可
去嗟嗟元字一趙末兩句似言其試紙不中也

於潛一選寧七枕吳作枕吳有於潛縣時有女自誇吾妍不知他有美
人枕吳大國也故元朝張伯雨名垂發于京杭州之人悉不
得知也於潛之中人不知也故人更別也

青裾一兩言一不穿履故知是白一簪沙髮一絲穿棕一簪沙一湖張白也
蓬鬢一此句上簪沙上三可有蓬當於潛女女背插大銀櫛長尺謂之
言其亂髮櫛也于髮挿一老澤一父祖一以漢吳王澤也錢鏐謂以此於
潛女背錢鏐也于髮挿一傳父祖一至今一故主錢鏐也皆于錢鏐宮梳

悲憶此錢氏也 苦溪一湖吳也杭州近之故用

飛泚照下字所去逢即一解一不信一美力有奇曾一
於潛一此篇每句用一句似栢梁佳而栢梁佳平声也句本李淑言格云漢武帝作
栢梁臺詔群臣二千石能為七言者乃得上生凡七言為句用句各述其賦後
人倣者或獨為一篇梓直品及蓬一字先生前篇自有本注於潛婦女背挿
大銀櫛長尺詩謂一簪沙亦作簪髮陳笈及注後于城有蓋言吳王澤也
選題用一美詞奇之女故詩亦曰其娶妻必存一美曾同周姓故先生
詩曰不信之言於潛女自於潛女自謂其美不信美一美力有奇曾也
錢安一一

烏府一半道為鉄肝御史一西風一一言威氣也半道威一素亂
美地可友一故不知寒一猶嫌一少一美道自今猶嫌白髮年一前

故今点紅一一人一意死然一此歌者也道服此二句見
身前字他年心之及年內一它日一自言也待君一
休一他年一公與其道同之暇休一如今一言半道也一曰一以華一歌者

道服也

醉唱ハ遠ノ丹ハ近ノ虎ハ作ハ是ハ此ハ丹ハ云

朝ハ紹聖ノ之ハ惠ハ作ハ朝ハ云ハ名ハ後ハ魏ハ河間ノ王ハ探ハ女ハ名ハヨリ

起世ハ謂ハ夢ハ得ハ和ハ樂ハ天ハ詩ハ也

不似楊ハ灑ハ皇ハ天ハ公ハ自ハ比ハ恰ハ通ハ伶ハ云ハ

何奴ハ秀ハ此ハ句ハ朝ハ見ハ高ハ朝ハ雲ハ死ハ天ハ女ハ維ハ朝ハ雲ハ云ハ

今ハ在ハ也ハ朝ハ雲ハ從ハ泗ハ上ハ立ハ月ハ義ハ仲ハ字ハ仙ハ教ハ解ハ禪ハ云ハ經ハ美ハ葉ハ妙ハ中ハ一ハノ

作ハ以ハ緣ハ云ハ此ハ句ハ以ハ漁ハ隱ハ義ハ詔ハ云ハ此ハ詔ハ道ハ人ハ氣ハ象ハ云ハ樂ハ天ハ櫻ハ桃ハ一ハ

楊柳ハ一ハ句ハ塵ハ俗ハ氣ハ多ハ云ハ詩ハ也ハ丹ハ行ハ去ハ不ハ作ハ仙ハ或ハ丹ハ字ハ借用ハ

言ハ佛ハ法ハ之ハ支ハ謂ハ朝ハ雲ハ隨ハ公ハ可ハ為ハ女ハ人ハ之ハ相ハ也

正月ハ惠ハ云ハ作ハ偶ハ云ハ林ハ氏ハ媼ハ女ハ走ハ稱ハ也

縹ハ緋ハ色ハ絳ハ心ハ綠ハ二月ハ末ハ已ハ綠ハ清ハ青ハ云ハ此ハ南ハ方ハ氣ハ候ハ早ハ故ハ也

娟ハ一ハ句ハ一ハ句ハ皆ハ林ハ氏ハ家ハ所ハ見ハ也ハ落日ハ孤ハ烟ハ取ハ節ハ知ハ客ハ心ハ

自言ハ言ハ也ハ短ハ一ハ句ハ主ハ人ハ林ハ氏ハ也ハ子ハ美ハ詩ハ中ハ黃ハ四ハ娘ハ上ハ云ハ此ハ林ハ氏ハ知ハ云ハ

在ハ律ハ中ハ知ハ人ハ壁ハ言ハ也ハ娘ハ在ハ老ハ杜ハ集ハ中ハ也

悼朝雲ハ紹聖ハ三ハ惠州ハ作

紹聖元年十一月ハ作ハ詩ハ上ハ皇ハ天ハ放ハ楊ハ柳ハ枝ハ詩ハ也

三年ハ朝ハ雲ハ一ハ葬ハ之ハ直ハ大ハ聖ハ塔ハ在ハ泗ハ州ハ今ハ惠州ハ有ハ之ハ故ハ僧ハ伽

塔ハ一ハ回ハ中ハ三ハ為ハ民ハ祈ハ福ハ故ハ云ハ予ハ既ハ自ハ解ハ云ハ公ハ和ハ此ハ詩ハ少ハ慰ハ云

一ハ句ハ憂ハ也

朝雲ハ一ハ句ハ大ハ美ハ我ハ且ハ死ハ一ハ句ハ偈ハ而ハ絕ハ四ハ句ハ中ハ峰ハ廣ハ錄ハ以ハ乃ハ至

一ハ四ハ句ハ偈ハ等ハ百ハ千ハ方ハ億ハ云ハ今ハ此ハ設ハ所ハ言ハ也ハ夢ハ幻ハ泡ハ影ハ一ハ句ハ也

何ハ七ハ先生ハ於ハ朝ハ雲ハ墓ハ前ハ作ハ六ハ如ハ亭ハ以ハ是ハ推ハ之

趙童烏楊於子也蓋亦早死雄言正撫論語說也

駐景一則又言朝雲之死也三生字則詩中使多矣取取一則言葬也

苗一十言乾兒早世不使童一與我玄

駐景一以皆言朝雲死也贈行一以為朝雲言修旦福追膳

凡小乘禪言為有相之行傷心一自小乘禪字出也

彈一以念償前債三世父母因緣斷世彈指李長者華嚴注

驚覺也善財彈指驚悟於勤意也

取一尾夜一禮一僧也朝雲死取根公无遠近隔夜灯常禮大聖祈

冥福必得度可高女人相又一義譬取竹根无生死隔常來禮大聖

昭一在變以

照君一艷顏色楚人不敢娶謂是漢妃子

誰一此為胡鬼為毛延壽誤家胡國也人言一楣門上掛額

梁也人生好必得幸可求故女為人如門楣昭君不然却當辜夏也

衰言胡國一衰古來

趙成一蜀麗漢僕与趙恭一垂見此麗人不肯用樽徒吟

却和公次句也春雪美句亦麗人句也

戲一以琴工名妓女也

流一清一坐一在莫一末句戲也

韓康

窓一窓前有也水魚出遊吹日生酒浪此細浪即搖窓言一

實景年弄上清境黃女悲翁故人詩春女黃七上句可
不覺空公不覺日莫也此明明月之暇取寤搖一言評曰韓康
公座上有收魯生无罷為蜂被螫收乞詩先生書一記于扇上才一句記
其姓次句記收夏康公大喜云私魚之字下日字之是六魯之也皆記其姓
一一此處即蓬萊也天一二義公自言又康公故
曾一梅一來一指朝廷出蓬萊句也公曾到梅檀殿未故處即知
蓬萊也然梅檀殿出處未詳以其華嚴言之故

回先生呂洞賓醉沈思家一云兩一東一白好客呂洞賓庵亦多
書以黃金買收也和仲以之字老一以下皆可少字注也
也俗何知上卷此沈氏不然出序西隣已富句引又神仙可學字上
以儒道之餘字但知一聖佳客呂洞賓也

不問黃公一沈老只以儒道為本不求神仙不洩洩宿也

符籙一與外往忽見黃一句一譬華岳一猶傳青一華岳
先生蓋言李奇欵中詳

淒一沈氏死三年後公至此也故方鼎一數字餘一公論籙皮春元
蓋筆末一年故也一以楮皮為筆以楮皮汁書之也

中書君一中書言元筆趙世麟侯鯖錄熙寧元年道人過東老飲
七年東坡過晉陵東老子偕能道其夏取東老沒三年矣

張先一黃及作元豐三一四十六

先生一黃州故一詳有三縣黃岡汝麻城未見故縣不能致傳舍於
黃州所居傳舍欵夫孰流一何有一此傳舍多換其封檢之一間
公今雖有此間亦何存思見欵然余以有思惟心追覬其意一美且未得之

神仙護法一名誤以字誦道羅漢人故在老故道合衆人同踏款自在

送一牛之故未厭

梁道人 細素雜記云 皇始六年有大人長五丈足履六尺皆夷狄人
十一人見于臨洮是也始自王初并六國及喜以為瑞銷天下兵器作金人十二人
象之厄十四年亦秦亡之後法蘭子訓有神異道時有百歲翁自說為兒童時已
見勤子訓賣菜於金人營市顏色不異於今後人復於長安東霸城見之與一老翁共
摩挲銅人相謂曰適見鑄此而已近五百出矣注云秦始自皇二十二年收天下兵器聚咸陽
金人十二童名千石墨宮庭中至此四百二十餘年故東坡贈梁道人詩云笑看

贈李子 一 元祐 二 翰苑 五十二

駕部 一 景 二 良 循吏之 守漢 一 有道士 一 精練仙人 道知也

又吾心術精練 善金丹以遺火 一 黨 一 君緩 一 生子曰得 可見度也

未即 柔小名四旬孫

世人 一 說世人 一 危也以下凡李道士言言真之妙 誰知 一 羨李道
士危惶之尤名虎頭又封虎頭將軍故之義 今云非癡人則及言之之意意以虎頭

此李道士故早曹而尊顏虎頭危世人 三 刺面癡心 腰間 一 類上 一 平生

重言虎頭危李道士 戲着 一 故教去 二 作黃冠 一 仙人也 布 一

言其放狂自在也 千年 一 前乃尹可元也故比閉令尹一念 一 孫 一

令尹可元為李李宗固孫 辟言如尹喜為李子耳孫 故公意李 一 遠孫 一

耳 一 今聽久遠 一 喜又心也 曰注 一 李耳孫 一 云是 一 非也 香公 一 以一念言李李宗

固孫也 丹 一 前乃危師今亦畫師也故習 一 云也 决以上危 一 字右危也

五十 一 公此也 五十二 故過 一 二 表 一 李道士今言公 一 真故 表顏

記我云 它時 一 集 一 公今在翰苑故云從此而欲言公 一 真必可寫取

休也 香山居士公借用自言也

李 一 一 慶新罪人曰當言使罪法相當 今云非癡人則及言之矣 記

意以顏愷之七李道士故早曹而尊顏也李 一 一 字子指言李老君

也李耳孫謂李氏 一 孫也 曰注遂引李字姓李名耳誤矣特

譌偶犯而已何以言之白舉一始相也曰孫遠也俱出前漢登
香火一指言太子道士前身是尹道士也丹青一又言老

道士前后生皆能登也雲孫一子為身孫目音仍

送喬一賀元也趙章聖即真宗也晉謂石晉也五代之元一指宗字景京翰苑一作前一首送喬今后五純寄賀君也

日閃晴傳宗人章聖一東封世宗有之一晉水一委石晉也

賀元又上一上不知也上真宗也不知何人已而闕認一物色求子陵也

天聖初又使其才子一請勅法

直一以金銀作像也故直千方張一得其直賀元仙術直并謁真

宗更有喬一賀元才子大風一癩病也今年高而今一元祐指宗

全一予苗之不可曰業承山一在密以又曰吾合賀君於常山一

公在密以祈雨常山也意若君一之全也君年一毛記注

都美漢君注言有都對等也初得一惡病癩病也癩病之

隨眉次常語也紅一今日癩病尋才欲勞終逢賀元得道譬

如趙聖以癩病藏常山逢仙人得藥也略逢一決前生後世賀元方種

照一言賀元形容再拜一全拜賀元一呼賀教得道也

覺知一全已得道脫病蓮一必出泥中隨師一賀元

灘却一密水名山頭一常山輪一太守喬全言也豈知仙人賀元

市中心也也人未知賀元所居一喬全相隨至今元祐一初故尔未八十

全今八十也垂胡一後唐顧下肉也今此胸前一毛云也

上山一全今垂字已仙凡一故也東眼一新年上元一老仙

儒賀元也序所謂賀以上元期我於蒙山者也秋風一奴以空喬

自密以京師西也故西未下也今上元也故期秋以得素一我无

寄賀以下五首皆寄賀

生長一五代一問一兵免今至元祐太平人賀今不見喬全

相逢常山故以今云元祐太平夏一取訪也唐元和中多詩人文人今宋
天下度曆元祐中多說人文人故南渡之后寧宗憲之号度元之年平
不驚賀元長壽也來賀元幅言賀衣服

曾謁賀謁真宗也幅言賀衣服行宮真宗行在所也空今謁帳望真宗帳望之地

垂老賀元相逢真宗向章庭於淮南洪福寺能言聖政始知高似高山西老不見高祖后賀翼惠宗似高山西老不見高祖后賀翼惠宗

四間晉即官看燒丹公親近賀元欲千古最一人公自言狂自言栗言通賀元

十一月一日紹聖二惠只作子由勸子瞻修无生法

析塵妙質初觀也小乘者以析空觀漸空色塵相

假地水火天和合者也然為色相念滅此心為性觀之入小乘者即空色相念也更積以能觀此即自小乘入大乘意也

此日冬至也故有一線之句也云照一灯閉門息此二句言修行勤功

春月息尺言得道田地丹竈无烟火占尽人間有量銅此言外丹服

鐵作金意也又卷成丹竈有量銅此言外丹服暈銅言銅鏡也寄語以上皆言修行得道意何於此与山論神

安期生倍耳作

生掌一羽策謀取表余謀策也不待礼見目下撥唇

有取秦策故欬也 趙洗先典及爵 一府異絕之音也 垂竟言為神仙也 踞床一又言高祖也 扛鼎又言項羽也 支一言高祖既以侮傲而不可見 矣項羽見而不能用此所遠引而去 兼仲連之遺風也

安期 一序所謂以策干高祖者也 平日 一不見隆准去羽 隆高也 准拙也 言頽觀也 此應邵義索隱破之 准大鼻也 應如 一於戰國欲亡秦與安期同 故此支阮西大誤 言其策與劉

飄然 一乘風去也 以上次句也 不肯受亡去 一上云云 乃知 一也 一言世人學仙者 豈 一以安期莫文上山澤 驪仙 偶不死 出松栢之內 茂陵壯風 一高祖 高祖 於 一武帝謂安期不見高祖 豈見武帝 李少君於海上得如瓜棗

迂誕也不可信者 安期 一上云云 不可同途 一得菓 不可也 過安 一象符 此乃張道陵所寫 道陵 漢建武中人

又永壽元年李老君與張道陵至此山於云

天 一道陵天師明朝宋景康又集之中 有天師老家篇 詳言道陵之文 又治群功 印 二 手之符 道陵平生自足 今此詩 天師玉印 言之也 故國 一神 一

記所見 一以谷 一子由益文殊普賢即此詩 本韻也 其 末曰 吾兄子瞻苦妙異 敗繒破紙 收明鮮 自徒西行 止得 此誠 與 宋代一觀 此詩 一末 若 此意

西 一言仙衣被 一後 一栢之 栢山 一雪山六年苦行 一麻衣 苦行 穿膝 鵲 一今此栢生 兩肘 一翻轉 用之甚妙 初如濛濛 一或送以前也 漸如 一成道 以 道成 一奔 一佛滅度 之時 五子 一類皆悲感 涕慕

飛眉 一言等 竟 菩薩也 遠 一彈 一不效 佛滅度 實性 自 隱如 一菩薩 佛今 死 實不死 月之 清 昼 有 其 真 体

在春遊一必令在開元寺 有如一鮮道子鮮比孫鮮
來詩一子由 文殊普賢像与之道子此益
安得推子由其道子 說子由文殊普賢美此道子益子

讀道一必往溪堂讀居之也

嗟予一幸偶此琳一道藏在所也 丹錦囊書表然也

青霞裾表然也 王喬一山金一守藏之神也今輪藏大士五丁力之

在世 乘閑一涉水山請百日之暇故暇徐之ヤト云

至人一何必誦千書口胸中虛元自然之道聚之其一言是此支

如回照返照一言足知其胸中皎如芙蓉之清千厭一言至道

此一乃一如之至其道道各如蓮降只俯仰隨人已其實竟不在也

人間義上直好昏心上直上直无用也今世人性之学道者不為吾亦為人自

去直花子注精相也 何暇一出一行言暗疾也吾道餘及天下吾亦出

真未除只為人可惡畢竟言誦書之无用一言有道可然意也

成都一杭州作

欲一當一飄一雲一今空法通若教若教伯升隨名聲之

之韃鎖料得一能公有雲水孤僧念若与我同在世上只与我同之

過永一初過入長老言鄉里之好再逢之初逢病中今過万

里家山一夢中吳音初過時之特記也夜閉門更荒村再過

時之記也今過時已卒也

初獲行一施一今言死去三過一老病死一彈一老來今在七

欲向一文長老今垂死昔圓澤如李原逢重此處可相逢是昔杭下支

僧俗之故交共合此公妙也李原必澤三生后支說无朝之程雪梅

日此峽樣精之言也非實支見程雪梅文集年二首言

去一山一此詩之寧七年杭及之作

今年六月

雲師以下按序至法去年六年清以公自言也

我初言師我无言却有言師无對却有對也

今年七年云已滅无餘言其寂滅也

之餘涅槃言菩薩地位有餘涅槃言凡夫識相殘四大五蘊識輪迴道

比才新盡火比智才智共滅也

却疑言常言識論師今苦死實非死此室必有

所遇言今人生中死生不死生一致也如何生今生生亦是可死所遇人曾是一夢

之中也 支過言今生生皆是可死生后何求之

僧惠詩僧職勤疑是為佳那惠勤政陽下僧也

軒言僧本可自在无碍今當職譬如籠中雀

既為物言遂与言每僧居職譬如俗人居職故与吾輩同云

萬事言虽然居職今亦罷職故万复一笑空云清詩言美勤言詩也

清凡言言詩美 餓坐言詩人体凡凡非言能言古言義

論言文章言窮人言政陽言意翻論之窮言者自然工也必非言窮言

此語言今言勤言詩工信政言論言矣言蓋此僧政言下言之僧也故云

贈上天在杭天台言京也傳在仙祖統記并通載此詩可杭言作今以

贈之言作密州言作誤矣

南北言上下天竺皆教院也只中天竺言禪院中有言言辨才

一都言言杭言男女皆化 我有言言迨言元祐四年治杭言子

生四歲不能行請才落髮摩頂即善步乃知言以下言才不拘戒律言

何必言言不是言法華言伴在名言此師言如此才必不貪言魚肉言只言言

法華言伴在耳言法華注證宋至和年中人莫知其所從來言林相

奇古直視不轉言掌誦法華故名之每行市中寔蒙而趨言從屠沽

遊飲啖无所擇道俗共目為狂僧也

次句一元豐元徐州

道人一以下蜀抄序潛本言人也故亦驛人為伴

人間一潛眼前元南北一隅只人生間人未始如故抄下何

曾冥十言閉門一言古寺一中在行住坐臥如今一今欲出

欲亦惠初說法為中生也雲初一磨一未詳

霜鬢一言顏色異兒童皆驚公侯欲識一世人輕不近此人

故知一此言此人非倚市女故世人難近

秋風一今住院在淮上一思之想見一言潛居處

故人一以子潛也故各上云此義此余謂潛故人各在天一角相望一言

其故念也彭城一潛只許我取文東一以居處也潛常未及潛

居處故千山不憚一以常至潛處又言潛至公處兩一脚輕如猴之

飛多生倚潛之說妙也猿雀一潛之感人心必潛不欲之世人見

之感激也譬如猴吟虽自然行人聽之感

空塔夜雨上句之意同掩挹一心有思也挹作也又作也共同

我欲以下潛欲回佛法美言瑤草以美言

傾筐一簿書一以徐吳政莫不往潛一處

者一昼不往宵可乞取摩此法理除煩之惡心

書磨一黃州作老僧依杖磨也趙曰磨以思反

磨公一但嗟一磨公謂今途末世不逢菩薩濁惡世末法也佛法有

正像未之三法維之經竟像譬菩薩野以譬二乘聲聞

我來一今未見磨公四跡皆云似達之序言况有人見者

為吟五言偈以兩白二義五句偈序所謂磨公所賦七言詩也又以言此

上言之初也

子由作子由作詩述河公行實見支抄黃及作

眼前一要一无一試一看一頭一无一此兩句公問子由抑下一請一與

宵一徑一自一佛一意見一之一皆一无一用一也一只一小一乘一可一

眼一二十一年一傳一作一三一十一二一年一誰一信一公一以一抑一由一意一子一由一謂一不一睡一之

意一不一睡一即一睡一也一如一何一煩一惱一睡一蛇一死一人一皆一安一眠一也一是一問一公一實一非一不一睡一得一安一眠一也

次韻一醮一祀一天一帝一也一黃一州一作一

濁一也一天一帝一人一間一污一穢一夢一尋一著一作一唯一夢一至一天一帝一心一也一玉

佩一奇一天一帝一佩一也一

次句一黃一童一嗣一也一元一豐一八一汝一以一作一

世一此一二一句一言一室一覺一行一脚一了一畢一從一无一此一句一義一命一人一昏一行

脚一了一畢一何一小一室一覺一獨一之一故一誰一信一石一頭一室一覺一枯一不一過一石一頭一滑一踏一今

皆一得一

以玉帶施元長

元祐四杭一作

病一膏一公一病一膏一誰一堪一帶一上一結一句一靴一根一隨一前一解一杖一故一元一老一也

欲一放一今一元一老一却一又一点一袖一衣一意一如一非一衣一休一欲一乞一食一歌一姬一院一也

雲一山一言一元一老一也一此一帶一德一哉一錦一袍一公一以一此一帶一與一元一老一又一似一万一回

錦袍玉帶

送金一取一蜀一南一堂一此一四一字一小一字一注一也一元一豐一七一自一黃一至一汝

撞一我一非一蜀一中一人一何一識一字一隻一影一个一入一蜀一山一原一洛一江一洛一江一言

今一所一埋一土一地一也一蓋一寺一在一梓一州一也一冰一盤一今一至一梓一及一必一可一食一糖一霜

琥一珀一糖一手一相一同一名一也一此一二一句一蓋一有一指一言一之一故一按一意

龜山一元一豐一七一自一黃一住一汝

此一生一煩一惱一惡一念一日一夜一生一長一寄一語一辨一未一不一然一中一詞一詳一言

夢一山一境一目一木一魚一公一自一言一一一宿一也一鏡一兒一一一條一一一言一五一未

旗款途中長竿着五采旗款 勿心驚 言其早朝見言堂
雄深構レ 少覺 言說法 機刃 羨師 尖レ 見レ 河
如浮泛而此中遊戲 我亦如彈指 向人向官 榮枯レ 道レ 甚可羨其可悲
蒜山 公此中欲居故乞地於金山元長老 元豐七年自黃梅汝
魏レ 以上四句 公大表 不用无処容才故乞地 欲容才先設此 喻甚妙
東方 公少年志大 漫誇レ 方朔 言其年 不相以上言 其不
字得竟得世 惡長老必怜我 可憐地 意見 趙在注 向文 朝
廊後也 司馬云 朝布履也 落雲 落也 言其形中 亦淺文 小則零落 亦落也
疏曰 朝 平淺也 魏王 田中 惠王也 昔居 米邑 國号 魏後 為 強秦 所逼
從大梁後 改為 梁

金山 一言元長老 河 我 公今自黃梅汝故有此句

招此 家 以句 詳无家 吾不折 身 身 只 一 心

贈常 長 元豐八年

天衣懷 圓照本 金山 惠 報恩 竟照

趙老懷 即義懷 禪師也 初住越 天衣後 近常 薦福 初本

蓋其一 圓照 禪師也 諱 宋本 參懷 悟了 字任 臨光 後近 淨

慈其二 大通 禪師也 諱 善本 出世 住双林 移住 淨慈 迷

圓照 后 號号 大小 本並 見僧傳 詳矣 三人 皆子 在坡 同時

第一 篇蓋 先生 雲 禪門 消息 矣

碧 紅 井 此 二物 公即 獻 竟照 禪師

也知 公今 所獻 公 凡 法供 无窮 言其 併法 窮 趙法 供

僧徒 每云 財施 无 法施 无窮 也 巧便 尖 新言 二老 以 法 機 也

薦 公 老懷 以 善巧 方便 度人 兩本 以 尖 新機 用 接人 趙僧 宣傳 云 昭宗 問 其名 有 詔 住 上都 法 堂 賜号 大通 禪師

趙鏡門先生借此以言報恩之論法也

馮師為作之謂覺照為乃前說法聽眾可作鏡門限言其眾之

又一義覺照傳此乃祖之風聽眾不可多故以勸覺聖教作鏡門限也

參寒多言元祐四杭州作時會一蓋復中也故用多覺經句

寒初得杭州臨安縣智果寺至

漲水一也忘家客一矣寒今雖在此院思而此院也各各

三間一言智果院數步一言地一深擯金色也散大也

雲一言寒寒泉玉醴井深尺相推測一言言今遊此

一眼一乃嶺上之新見也山晚涼一今向言乞下居后終下居於此

送小一善本也指宗因其名有詔住上都法雲寺賜号大通禪師

天衣懷一孫必照宗本之嗣也

寫形一上出處一山林軒一師運使安逸十之八在朝市在山林共一致也

何必朝市之隔之只公一重之公也王城一言法言在也

聖詩一古俗二評法向最上之法曰第一義師今可見指宗一如達之見

武帝安可限南北既雨一施其法也

何年一言未未師之般院支

田別一 元祐二罷稅守也

趙水清而月明現於水此以形相觀水月也然論其理則月現水之

理水有涵月一現本自清明耳空乎一蓋言不用網釣空手捉鱗耳

黑月一言精明一靈活煩性垢濁一煩性寸漏一煩性惡心

梨汁言道何時死一月月吾真之下注非也

濁水變清水荆棘生梨棗屢一康柔一化南榮

仙人一行入此人生必如洗陰馬仙人微服地行吾凡俗題名

不能往見一煩于一言格衣 獨控一言格用

天衣懷一因照本澤律慈本名善本天衣義懷住薦福

因照及懷住越天衣常之薦福因照皆後大通見因照而默契

宗旨繼因照住淺塘淨慈收号大小本

善本出世住務州双林六年浙東道俗進崇至禪傳大士復生初住

淺塘淨慈繼因照宗本

贈月一穎易作

天形倚一笠以下云司義命也天地之間中原此中原天地之外

見一塵在首尾端此中平半幅紙上功名兒女浪苦凡七人爭

名利欲如此合月長老独存天地大地以是

地水一潭天儀儒意言之秩教道教祝空輪水地也金輪凡

輪与水輪間在五霸齊桓晋又秦穆宋襄林莊王也

功名一二義廣斐度傳功名半幅紙如又功名半紙上書也

子一十年一中一折足五合陳黃陳未古為黃陳却是莫特人

延我以下言遊古也白灰地炉灰也維那凡於寺為紀綱掌眾也

故維那慎云拱手一默坐中訂抗法壁言如廣灯永墻壁凡碑

皆能抗法又植說華嚴云水鳥樹林皆說法之去云

不煩長老主與宿乞蒲團一公謂不煩主宿乞問答只息返照

送芝一法芝字量芽元祐七年一作

二年六七也闕一我老後生有何功名故不自惜死此中即受惜之意

團三信三州唐以牛牽必磨磨此譬喻公之新意也又公之句團如磨馬

豈知世外一公奔走人世羨世外與鳥樂人此二句結前生后句也

有所適其上人見公有所心適計法公於其問庐山之行田芝

若無由又向月十鞋淺否又若無故日計闊

吾生一出誰能必定江南一言若山又言揚易致言出如無憂意

僕少未一以備故不推紹聖元自定州赴惠易過長安問夫禪師病云

應夫禪師入衣懷弟子也至一灯有娼女為其所逼入其房不至師脚踏

達旦禁林謂之夫燒脚公此時見夫再三故作三絕句呈問復三鬼聰

也七字彈琴十二字書十五字詩有之名遊公卿問秦少遊取棧表

經文殊撥觀音諸字入問復并請問復與冥也

亦知公見夫病如李咸見童子此夫禪師之病至死其問法道亦孔子

於老輯如問道注地文不動自天壤動自髮心形容

耽老言其病躄義亦平生之躄云

莫西公自言公鄉里此地万里到南華一遊扶一此二句夫禪師送公

送客公自言回首公自言與未若乃阻風可雷阻風留我意者

喜爪情

贈清同南近一作年移紹聖元年七月泊金陵九日

阿弥陀佛像成奉安于金陵涼寺作齋并贈和長老之施

佛是紀實言所益像乃丈六佛也

一洗言其將自摘也回也

問禪音无著於清涼寺達文殊令公亦於清涼達和契情理

无著入契前三語施佛借尺迦語於泥報身佛毫同

五頂亦四大海元祐八年邁造母王氏之命三師教作於泥像助其禍

紹聖元年六月九日像成故施佛云老去沒馬塵中思清淨

會公向長老斯北飯之時以味洗瘡毒未用固期詳也

贈蒲惠易作

優比漁也佛瑞之特一花其比佛之与相之法要也夫法思難得如此花

故山有花今長老以与相之法傳誰家

問師此優曇花已後子此佛教放不向此佛教皆

蒲團子故言又言然向佛教不問仙教也

燕一志機竟高不拘法行

趙云高眼禪門人食粥最早晚鳴則食美安眠於已鴉後所以不問鴉也

寄鄧一自作羅序一在惠嘉隸也

趙採薇一指言鄧也將以其居山言之不羨者為也者指言

足亦長二尺之替人之卷中一則又指鄧也空輩又言野人者也

嘗於庵足一予金椒一准易郡名者嘗守郡

山中客言極也送一言種為意也遠一言致訪道士

乃以公今贈鄧道士一盃一言酒也採薇客言鄧道士也

遙知一言鄧道士出人一言羅浮山野人情一野人也

嘗道士野人中人迹一言野人仙言鄧道士不可見行迹

此二句許美用杜拾絕唱

次句一紹聖二年惠嘉作歸可明

左角一此言照豐變法一羊項羽亡秦后五年向戰高祖爭夫

下漢供破楚壁如騎牛又勝侯節侯長厚于楚南柯一夢一中

二十年一樂如多寬其其然虛也

鈞一究絲一為憐一公今此四之細查又為修行目上所得破楚壁長

細查如故却自嘆崎此之細查我小乘僧也

鍊橋一石一以上之六句皆在惠嘉公曰甚身之人眼見也

我醉一公惠嘉之實查也陶云吾公一新意后人多用此句法

玉一肥道肥以上之四句公今在惠嘉羅山朱明洞裏警氣養性

得道之從來一坦海處相一此四句卓契順今未回公之安否公卷

之以白日與今日之查出人白一又此蜀言二乘一見此白骨觀外化一

有五種之觀法其五種之中有不淨觀其不淨觀之中有三十二種之觀

三十二種之中有九相觀此九相死後之觀也白骨觀其一也

大士甘露滅其甘露滅大士之尊本覺性常住不滅性體也此本覺不

滅之性勝也證如甘露之味故六根六塵各一心境下西也本覺性

習氣凡等覺其菩薩習氣於左至妙覺人空彼白

骨觀之中未觀本覺性故有煩惱之習氣也

譬如以上法語也公未盡煩惱習氣唯言一卷士修道之老

竊造皆人具足之成也文字兵不字在

所見人皆安天浩氣作一篇合儒墨各百生等真端道

失聖人至德道本名言平本初之清非彼言合上此詩說程伊川

治堂公史業也

閑居毒障公痛惠易之疾苦者界藥須藥者細毫毛又字眾夫

橋以濟病涉老惠州受教

區効一既公樂小善根惠人譬如陽早時以既水救合生

佳枯豈能濟力惡不已出公救蒼生意本在然不容時救蒼生

力不已出令此小善根出已斯時也汝輩出言乎

少壯物蒼生微山惠州不過平生志空痛苦願呻吟百姓悲

覆下淨名妙法河沙現來是淨名心在往來相同一在

維摩於思即高城為法善所老手當手上現他方好去界右現

百億恒河沙世界

云何

憑口唐各宣宗比僧尼欲遠遊尋師者須本州信公憑

二月八日穎過一問病

安心可道北言終息觀。嗔日氣也。又一注養神不死曰玄北。
三士黃墨也。

第四終

○吳子楚道人也。名復古。湖州人。子中贈子楚云。食無酒

肉。腹亦飽。室無妻妾。身自存。紹聖二惠州作。六

聊為一緣。此句意力。為他ト終ニ可作ト。

獨鶴。取不眠也。老蚕。取絕粒也。

憐君解。下レ注非也。公于子楚遊二十余年。南遊至夏楊間。子楚无

無語。及得長休。表レ之。獨告。攻曰。邯鄲ノ意。猶是破レ妻。般有レ目。見レ而身

猶復レ。可以少悟。矣。蓋言之。

我来逃。公于芝上人遊。故逃。禪之。世人終逃俗。芝ニ禪云。

會与。今于過芝陸三人相會。人必可故。芝ト以レ說レ師會ト可故。芝

上レ傳千載。必定也。

○合浦

孤雲。愈何ノ適之。只以レ。為レ。公問也。愈才ト。

贈堯

蓋輪竿也

持皎

公時北

斫一作箇

竹中一作箇 記評此句說西竿之句次一滴字足語之病也私曰公以竹中

一滴水曹溪六祖之法道之起スノ大難ノ張起ス方如之次曰公因并以寓禪而已不可看理義

乞教

此說建中靖國元正月自韶至南雄度經行南安之作也是先元符三年徽宗即位大赦不都昌清隱禪院唯湜也浮山遠祿公之詞也又或黃堯之也ト云ハ非也

從君

公以此數珠念仙ノ可消遣老境之雖然公俗諦未高只煩惱惡念之中ノ念仙ハ不是轉千仙之名号却千仙ニ轉セ之ナリ

儒生推

以上之句ハ儒杖道之三教皆以文化為宗旨由道ニ觀之皆利那一端之中也况ヤ吾力匡之ハ蚕如在蚕皆以數珠轉ヨリ千仙之名号出リ

適

公今自貶所還也貶所ハ昌化也蓬萊一 指言熙寧以來貶政之文化也蓬萊ハ言朝廷也

再用

嗣宗

是落在言事理之見也兩人之見也公无用之唯執睡可

東坡

更轉三三 南迂三三 西句ハ自言此

却

如三三 已至得北敗而莫免故人間古佛三三 此二句公概用也

諸

以數珠念仙之得此道諸方ノ看宿ノ常卷ス概用リ

當年

言湜子由寄却昌清隱禪院湜記リ公又有清隱堂銘

鶴瘦

混形也龜不喘混心也混老能養神得道也

和我

發三三 彈丸說或言說之早成私曰未見早成之出也只可因旧

注之圓美

共笑三三 今昔年已彫表ス而生生猶如石未六親湜方丈誤湜老如虎毛

羈枕

為君未為羈枕夢。一曰天上之均天紫薇清都北下大想像。故清都元在默仔中云。以上比玉局。每逢——公羨道士之佳境。携兒行年。與我同老童顏。自笑——消——此末句公終可成。玉局意也。公之餘生消底物。度而之賴水三百里。半萬。終可歸成都玉局觀也。

贈記

雄豪

雄五系之七妙。苦。在腰。李義山說出苦切之中。說作道。通力外。祇有琴聽。香殊。香林——此說言道通也。又一義言道香。

古井

公自言才尽

次曰

在金陵上同。五月日舟至金陵。公自嶺外。既重過此寺也。

過淮入

公北飯已絕。江山勝景。有塵俗氣也。意不用使亮之故。更

但怪

言長老。長老。塵俗之中。不深。如雲山。公改色。

送我

長。真州。長老。衣中。若俗士。有別。長之故。雪浪滿

衣中甚妙也

答徑

維琳也。上同。辛六。七月二十八日卒。此說絕筆也。及末后公

身辭。既維琳。向公曰。內翰。著平生。伎倆。公答曰。著則誤言了。死又佛祖

統記。四十一卷。錢濟明。侍傍。曰。公平。生季仙。此日如何。公曰。此語亦未受。遂

與君

與公同年。各已。一。日。言。日用。三昧。不必。千偈。公

難容詰問。大患。公自言。言。大病。長老。有詩。又戒。公語。了。故。有此。句

如。電。言。作。頌。之。早。也。平生。以。羅。什。比。長老。

賜曇

法。芝。見。上。卷。黃。竟。嗣。也。

白雲

此。二。句。景。聯。也。為。末。句。胡。為。之。句。張。本。也。道人。秀。時

自。杭。易。到。嶺。無。夕。收。

此。世。於。其。悟。取。始。可。信。此。世。之。幻。矣。

袖中

二。義。秀。出。經。示。之。又。說。辟。月。星。珠。字。也。蘇。子。秀。來。既

荻荀已過，其子未熟，秀六八，可治其，故歎送飯。

過楊

蘭言石一勺——石盆中置此石，葛蒲以石葛，助我眼力，忘凡之上書小楷之字，譬如尔雅註，鎖細之虫，魚以楷字，非尔雅也。

送佛

十方——凡法身仙周遍法界也，今在在文上必又可伊力。

携方飯

此言在尔公手中，可尋常送与息長老，緣添一般奇特，寂怒号，又携方飯，只方寂怒号，又故送与息長老也。

贈度

此記冷齋夜語可考，慈恩上云，即玄奘三藏弟，于玄奘八天竺人，初自天竺持唯識論百卷，未欲廣之，慈恩告玄奘，曰：此論繁多也，恐傳之者少，請減之。玄奘即減之以十人論作十卷，乃使慈恩作此注，慈恩法眷最明，云人欲見此論，玄奘秘不教。

見古傳之注，有慈恩用智嚴筆，顯高親識論，慈恩眼在浴室前。

之驚惡及云，故今所益慈恩像，在浴室持唯浴惡及云，白之，昼下云，私聞之，寫之，未見真說。

居士——公本有，塵勞煩惱之垢，除却了，何堪洗沐乎？道人謾借宣揚浴室之句，但見——此二句言，鑑老之未悟水，因三昧，譬如古又神贊於浴室言，勸受業師未發明也，故光之字，浴室故及蠅鑽紙浴室出，未見只神贊之，用語一致，用力。

偏界——此二句亦於浴室言，裡寐，又此佛道下云，偏界不曾藏人，人具是一絲不挂，逢場作戲，佛是然，以金老未得此道，非鑿老說，故下却字。

却須——佛說，因通下重字，跋陀，漢羅，二十五菩薩之中，第十六也，故二十六，爾士下云也，爾士於浴室悟水，因三昧於重筆之上，悟浴具，次得大安樂，故後人之語，多有千眼重筆，上有文，公身之句，水於六，於六，悟觸，一得餘，馨，香味，能法是。

中第十六也，故二十六，爾士下云也，爾士於浴室悟水，因三昧於重筆之上，悟浴具，次得大安樂，故後人之語，多有千眼重筆，上有文，公身之句，水於六，於六，悟觸，一得餘，馨，香味，能法是。

上悟浴具，次得大安樂，故後人之語，多有千眼重筆，上有文，公身之句，水於六，於六，悟觸，一得餘，馨，香味，能法是。

身之句，水於六，於六，悟觸，一得餘，馨，香味，能法是。

悟觸，一得餘，馨，香味，能法是。

一得餘，馨，香味，能法是。

馨，香味，能法是。

香味，能法是。

能法是。

法是。

是。

曰因通下又觀音以百因圖之他根之故因通

碣一作唱

莫把——湛若向我把山林朝市喧靜之相見我乃把一棒与湛也故老丈裡有烏藤

留題——公時在鳳翔二十七

溪山——公今言空靈延生觀

樓觀

聞說——今亦相過下云故只疑田叟亦是昔之老子少康桑扈思

自清

鳥噪——內言樓觀 寂寥少人 皇尊少老子也

青牛——老子去遠 白鶴君喜若未款借語用心不丁今感

道人——上說有丹砂井水之句定觀中有古井款蓋言實也

士朝礼 野人——向老子祈蚕 汝師——符明皇碑——必魂自託

卷聯言此是款玄宗紀開元二十九年正月帝夢少玄元皇帝告曰吾有像在京西南百餘里汝遣人求之吾當与汝與瘦宮相見帝使求得於盤屋樓觀山間

授經——老子授尹喜於道德經所也

叙錄——其得道非吉語之上自得至到其妙譬言如張旭見叙器得其書妙少伯牙得琴成連琴今之妙 此臺——言百念消忘

而得道妙也

遊金——遊寧四赴錢唐守 三六

我家——宦遊 江潮錢唐江 天定——言山之暮之時

中冷——在揚子江中 微凡——靴紋細 是取——言初三日

月端之微也又言月又明也 我 魄 初一日魄 初二日魄

初三日也 悲編 炬火 江山如此 公竟入故也 久在山之約不歸山
江神見怪 驚我願 我謝 已 心也 有田 一 折也

甘露 一 遊寧四

江山豈 但有 一 不素歡之人 有相推者 共往遊 又之

我欲 一 當日 一 遊寧四年 因王呂 特政 特人就勢 故无閑官

二子 一 是不 識 欣然 共往 古郡 一 山有 日識 層 一 言

城之高也 樓 一 言甘露寺地窄 一 此寺之地 窄也 眼前之境 天水寬

烟中竿 門前之刺竿也 字隆 言高也 挾策 一 瑯 一 浸意也 孔

明以策 瑯 瑯仲謀 瑯玉 瑯玉 一 談 一 獬子 一本 仲謀力 孫策力 史也

今借用仲謀也 一 談 卜 孔明 仲謀 出策 敗曹公 於赤壁 於初曹公 破荆

弟劉表 專勢 却欲 敗列表 一 走江陵 終 與吳 合謀 敗曹公 於赤壁 是

每說 一 走 毛 瞞 一 名高 言 卧 竟 史 往 言 未 確 合 戰 策 一 大 鑑 二 一

四水 一 言 甘露 寺 地 窄 一 隱 見 一 言 甘露 寺 地 窄 一 隱 見 一 言 甘露 寺 地 窄 一 隱 見

中見其重 一 色 一 甚妙也 觀 一 考 謾 一 破 版 一 上 有 二 天 人 是 薩

也 揮手 一 序 金 言 薩 說 言 天 人 元 祚 白 典 刑 一 筆 墨 及 一 金 名

不刊 赫 一 碑 遊寧四年 寺 僧 所 發 石 記 瘞 一 埋 也 見 伏 一

曰 伏 與 今 見 實 大 理 之 所 為 也 故 可 歎 四 雄 一 上 之 決 語 也 迂 折 一 日

月之逝也 皆 悲 注 史 控 引 也 搏 持 也 又 說 也 弄 也 况 彼 一 言 兒 輩 不 如

四雄也 古今 一 古 今 共 一 軌 上 是 所 寄 又 一 軌 也 聊 與 一 四 雄 如 林 之 漢

故阮籍 登 廣 武 一 嘆 不 力 如 一 不 得 雍 門 周 彈 琴 公 即 泣 也

遊 靈 一 錢 唐 通 守 熙 寧 四 年 三 十 六 後 四 首 同 取 杭 而 口 經 晉

咸 和 中 有 西 軋 梵 僧 云 此 武 林 山 是 天 竺 靈 鷲 山 之 小 嶺 刀 創 靈 隱 寺

仙 在 世 日 多 為 仙 靈 所 隱 故 也

君 不 一 栢 果 躰 此 說 之 第 一 句 一 以 下 八 句 以 杭 而 地 形 言 之 不 見 之 三 字

凡 在 歌 行 之 體 今 用 此 說 亦 可 一 批 也 歌 一 一 應 節 義 義 也 行 卜 云 其

一節：下易說也。錢唐，吳越王錢鏐所築也。錢一斗買六二斛，百姓喜成之。故曰錢唐。錢王——注三五王下云自總。至俶，嫡孫故三世下云以弘佐俶支孫。

主之故。五王下云總。抗易臨安人。閱西浙十三，初保國八十四年起。唐昭宗乾寧三年終宋太平，與國三年。屋堆——言金銀珠玉之多。運及——至

俶降宋也。折簡，李密唐新日書傳。無注詳說之本。曰折簡，竹簡也。猶今片紙。各四方——至俶後錢氏四方。官遊。盛衰——盛也樂也。終衰也哀也。俶。

何用——公自憂也。溪山——自此言是隱。

凝香——九僧，貧人儒士，可貴。今却，是隱之方。又富貴，又旣能之。禮有故絕勝。卜云紫被，儒衣言松。又公自言。歎。几邊——莊子人間世曰三皇之先，文字未出以前之王也。此詩題，遊孤山然。言是隱之友，又如何。

雨中——照亭五杭。

蚕欲——此而不宜。蚕言不宜。少毛。麥已枯荒。又蚕，今欲老。乾也。蚕。

宿歸——觀音失是感。曼坐高堂也。深恨。祥也。

鷄鳴——以下十二句不言寺之。是此二句記錄。杭子淨土之途程。未到。全淨土。

冬禪——言不行寺。飽食——只活。飽。

貪食——新法之時，節飽。取意也。閉門——活處之時也。劉明說。

日入羣動息。歸鳥。趁林鳴。晚涼——漸有到寺與。浩歌——已出。

活處之門入。臨安縣之村。微月——言寺之景。相携——次說。

見夕——故人言寺僧。

自淨——

落日——露額日峯。直渡——橋下流水也。他年——已言為主自。

東軍節度。歸臨安。更見注。惟有——至此初。言切。臣寺。

秀州——浙西八州之一也。

万里——我除——言我除。搜句此外。無百功。明——言活州浙東有。

七州台州八其一。

獨遊

富陽子陵曰釣心杖通判 遊字二年 公三十八

富春

—— 鶴—— 時景也 龍歸—— 此句未詳寺有此事歟

欲繼

—— 靈隱之故又用普照蓋普照亦有江湖景歟

何人

—— 注起八致也胸中發動之意也

自普

—— 寺中無他人 哀—— 注哀公香著衣也

長—— 東庵—— 二庵也 山行——

—— 寺中無他人 哀—— 注哀公香著衣也

居僧—— 二庵僧

自猷—— 居僧自言僧有自負之心 我—— 公香

居僧也公亦初至志清景今却猷故自笑卜云

獨往—— 况亦同遊元

神傷卜苦山高也後難繼言再遊之不可繼也

作記—— 公香居僧

之出無討之句翁言居僧

本不—— 今居僧自負山深公謂之大隱

在寺何必居僧自負山深抑下山深居僧也

佛日

欲寐也 還尺—— 言睡不足也公為杭易通判在新法繁多之擾

更故有未足睡也

日射—— 鳴睡餘之境實如此又猷取筆意

宿海——

宿海

籃輿—— 多山之高下峻也 北渡—— 已到寺也 大鐘—— 一在寺

法撞鐘迎官人也 杉檜—— 此夕有浴也以杉木製衣浴舟也

倒床—— 公浴後即臥也

夜至

—— 四卷三過間老病死之說以前之說也

夜—— 惟有—— 退院之故有孤栖之句

虎丘

入門—— 秋—— 劔也又劔池水光歟 幽—— 生法師羅汁四弟子之

中人也初涅槃經未渡之收推佛意以立一切眾生皆以佛道之義取人

不信之只聚不說此理石點頭後涅槃經末此土時已有經年一切眾生志
有佛性之文凡涅槃經五多經有百卷今在此土四十卷二多經也
窈然——言窈然之心也。田清詩也。我來——景自旦至暮遊此寺也

同柳

在潤而遊亭七年在杭既以支過丹陽自崇回還

花眼

今此古酒卜云者也

岩頭

此二句未知鶴林招隱之實也

兼天——遠見故之曰靜近見之故曰忙上下景觀也

安得

人言李舟非華此勝境願如李舟者在吹笛一信可而白也

遊鶴

熙寧七杭

郊原——鶴林

書普

普——高——長志誠

父參

白足之言僧也

苦獸

已會得禪只臥才欲樂然黃公竟意少故苦獸卜云也

惟有——公只因

法師

論長老在佳佳山而未住相也

意歌

初自然則不

知其苦總及向——知其苦今法師被問不答是知此意者也

与毛

熙寧七年錢塘通守

推擠

公自負之句又在錢塘也擠推也排也公守錢塘四年至今

七年蓋四載也此三年卜云以大數言事

魚鳥

魚鳥毛如咲我父弟

此州況其民手依然卜云更不更如旧宛然卜云更新又起如旧

人未

人言王昌意江言汴京也

尚書

此毛全毛名侯約故曰清

節

如士——此方尉也注隱居放懷言朝廷在位之人又一義此方之

民志必當答上自負之句注唐方干如士卜不出仕後弟子多有登第

者故時人曰弟子折桂先生臥雲同眠之詩僧可明集中詳言方干更

一笑

毛令方尉公今此教說狂語不須刪者毛全毛一笑相逢于

恐後日難一笑

踞轉——未至寺先看
白雲——以下之二字眼
明月——疑山下山上之兩地有兩池共移月影
黑——已到寺言收節
人生——此景此收之樂恐可天賦
莫遣——取次容易也
批語又東山語未詳

留題

葱蒨——可加草言草木之葱蒨
卻來——門前
未寺中岩谷渺

天矯——天矯對強魚

窈窕——井深與伏潤同
今此山頭之井山下之水同
出水者也

遊淨

元豐三年出獄赴黃州作也
收過光州

齊天保

北齊文宣帝年號
諸傳為惠思今此為思惠從足

氏要覽用之

始建惠思旧處也
今淨居寺

十載

公少ヨリ李儒道不孝刑政名數之幸故有此禍
收王介甫新法刑政數之幸也

今日

今喜至此寺

稽首

喜之意

永子

決十載之句

之也
智顛藥王言菩薩再來也
詣南岳入法華三昧
修施陀羅尼特

於法華經七卷是真精進
是真法供養如來之文
開悟也
又曰吾

灵山

寺壁口

少年時

此句即五代人潘閻復日宿西禪詩也
一村院蓋西

在灵山直聽佛說法
灵山一會儼然未散
公句用是歎

佛灯

吟出兩句之意也

已應

知以下之五字退之全語

定惠

元豐三年黃州

出人

公自言偶逐

參差

言仙屋高又以月中瓊樓

玉宇之更言月非也

黃州入長安僧位同号齊政金統
廣明元年庚子

次韵 同前

去年——餘年——
餘年之少——如酒之少
憶昔——治平
三年護父表，故蜀路過黃州之樊口
空有——公自負之句
老景——黃加至不蜀上得安閑故踐履
穿花——不如今在黃
州之定惠樂

安國

遊武

武昌縣名寒溪八山在 黃加作

連山——武北峯 翠木——樊南峯 我來——自來黃加今已百日
欲濟——言寒溪 今朝——已濟樊口上寒溪 去人——去世人也
溪吼——夙泉，兩部樂如兩部鼓吹也 惟有——漫浪曳西山
寺有元結次山津禪

雪後

圓通

元豐七年自黃如汝初入廬山四月二十四日——明日忘
日也 治平三年四月二十五日老泉死餘見抄

石耳——此生——今日初冬臨濟禪他日雲門下禪之嫌也 五祖戒禪

何人——蜀僧宣六以公為似老泉公却嫌之故，有松康父子竟

石塔

饒眼——公義論也 虫知——義論也此二句助玉播也
無益——益幾何益却可遺惠

月華

天公——公義論也 不自憐不憐寺也 公謂此地因銅多而亦有天

時題 語 趙以小人語曰語、八消也 又以語相去也

却恨不自憐 万人一劫 脫身——弃室作寺意施一得万意也
至今——三度失火豈暇建寺 僧言——此地銅山故不艱失火
多曾何艱 此山——應第一句也 宝多故被剽穿故自賊不云
地脈——應上之富媪泣之句 道人——僧本可負道如此銅山不可然

南華

云何——可憐——公差立意也明上坐於六祖言下得頓悟也

借師——公願借六祖錫端泉洗滌我文章綉語去可而前生所修
之道

峽山——紹聖元 五十九 將自廣而到惠而暇作

天開——在端而英而向也 山僧——寺僧淡泊也

佳人——寺之故文言孫格事表氏也 叔公和孫白猿此表氏白
猿之孫卜云意也

黃州——自尋——公不受山僧之引道而自進山寺也

而今——今山中之含笑花亦如笑始皇之通安期學子仙

遊博——紹聖三年惠而作六十一 可轉兩輪今此水車卜

云者也一輪二可用而軒故西輪三四杆卜云

二年——二年八公紹聖元年十二月至惠州今三年也此二年卜之八

蓋除元年十二月也 初日——酣熟也 散流——未也雲子八飯白

炊裂——言麥制之饅頭 豈惟——以上麥未决語也 饅頭八

春薄特夏起搜秋湯餅冬宰九宜四暇也 要使——真一八公始作

之夾米水分合作之如仙人是洞實力教之見志林

年正——惠而作

越山——惠而越之地言松也 此峯——香積寺 伏艾——在

寺者也 真雁——茯苓也 山僧——漢陰丈人不用梳艾意

我愧——言確磨 數金破——言無古又生古又

次韻

新聞——以下八句自言也言佛法妙理學得不多又一言我言不到新經

之字 旧學——只言无用之儒道今學得 獨當——公如季主

可小憇 未遽——如梅福不可大隱 空鵬——煩惱不斷

寸田——胸中道也 初果道也 荆棘——煩惱也 梨棗——

道德也 高人——此二句八說餘外內服藥之仙人直吾力因丹

道德云 君看——言刘湜 我欲——公已得道惠而之隘

中筍蓄下思—— 旋觀—— 歷塊如 歸卧——惠州却

安樂之地也 故人——以下言刘湜文 偶從——只无心人從

越女而已必不佳者惠而 不怕——押句耳也 隴——不可為詩報

江月——以之為報 江月——以之為報 遙知——言湜遊寺

清遠——小峽山寺也 不称——寺遠故可為飢腹之空同

無些子遮碍 九王嵩少三十六峯元亦无毛人毛如五夕見仙毛凡毛無西錄至其六道則眼前

入寺 倦耳

曳杖—— 讀未——此玉堂在方以万里海外未多生宿業之債也

畱題——北畝之暇處中靖固元 六十六

畱題仙—— 列子故居自此以下拾遺

過木——

畱題峽——

輕舟——婉孌女——母之像在此矣

清泉——搃音庭中之江水

今八無——開戶——鈔盜之義注盜取謂之鈔

寄題——

口舌——說前人行言與已不同而語難之音稅難音奴干及

鬼公子師之——韓非韓之諸公子也言刑為法術之學傳見抄

双鳥——

次周——小石拳石或石之也看或雌雄石婆天竺老目婆鳥也音

觀激——有二義篋頭所燒之激水灯也又言篋水

題惠——此說公代山僧作

110X
79
8